
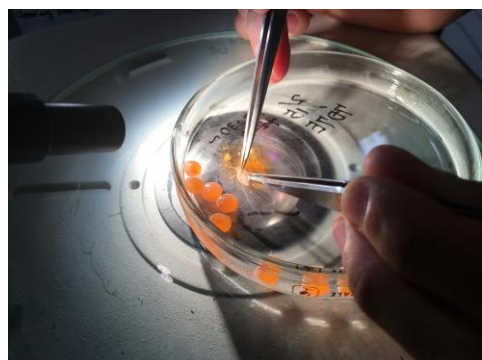
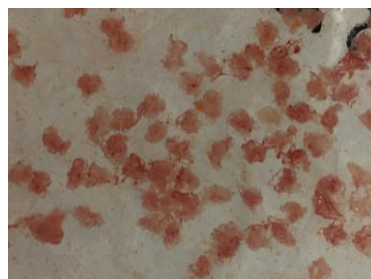
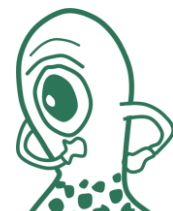


名前	古屋 峻明 (コヤ リョウメイ)	
所属	北大院・水産科学院・淡水増殖研究室	
職種・学年	博士後期課程3年	
実験動物	サクラマス	
好きな実験	定量PCR、レポーターアッセイ	
趣味	登山、旅行、バドミントン、読書、ピアノ、ゲーム等々	
Homepage	<a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/ni2008jsce/46/171/46_134/pdf/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/article/ni2008jsce/46/171/46_134/pdf/-char/ja</a> (以前の紹介と同様に、学会誌に掲載されたラボ紹介の記事を貼っておきます)	
ひとこと	<b>本企画で初めてエンドー君の存在を知りました</b>	
研究紹介	硬骨魚類の卵成熟について、卵母細胞を取り囲む濾胞細胞層を莢膜細胞と顆粒膜細胞に分離可能なサクラマスを用い、黄体形成ホルモン(LH)の刺激から卵成熟誘起ステロイドが産生されるまでの分子機構を調べています。	
トピック1: 研究室の魅力	サクラマス以外にも、チョウザメ、ウナギ、ティラピア、ゼブラフィッシュと多くの魚種を研究対象としているところ、そしてこれらを飼育しているところです。また、教員、学生を問わず個性的な人が多く、笑いの絶えないところも魅力のひとつです。	
トピック2: 目標、チャレンジしたいこと	最近、サクラマス組換えLHを作製できたので、これを用いた培養、レポーターアッセイなどの実験を行なっていきたいです。また、魚類の繁殖生態や行動にも興味があるので、現在行なっている生殖生理と絡めた研究を将来的にはやりたいです。	



莢膜細胞と顆粒膜細胞を(ひたすら)分離している様子



卵濾胞(上)と卵濾胞から分離した後の莢膜細胞(左下)および顆粒膜細胞(右下)